

水道事業管理者 三井 一敏 様

2019年1月18日  
日本共産党札幌市議会議員団  
団長 村上 ひとし

## 配水管の緊急点検と耐震改修計画の抜本的な見直しを求める緊急要望

道道西5丁目樽川通の北区新琴似7条7丁目で埋設している配水管から漏水が発生し、10日、水道局による地中調査でアスファルトの下に縦6.5m、横5.5mの空洞があることが判明し、ただちにこれを埋め戻すとともに配水管の復旧工事が行われました。これに伴い、新琴似、新川、西茨戸、屯田の一部約3万世帯で水が濁る可能性があるとして、濁水を使用しないよう呼びかける事態となりました。

迅速な対応により応急の復旧工事は完了しましたが、現場ではまだ交通規制がつづき、漏水の原因と見られる配水管と配水弁室との接合部分の破損状態の確認と検証はこれからで、地震による影響はなかったのかなど、その究明が求められています。また、この配水管は地下8メートルに敷設された直径700mmの本管で、1時間当たり130m<sup>3</sup>（毎秒38リットル）にもものぼる大量の水が流出し、地盤を侵食して道路の下に大きな空洞を作りました。

西5丁目樽川通は、交通量が極めて多い幹線道路で、万一、対応が遅れて道路に巨大な陥没が生じていれば重大な事態になっていたことは明らかです。今回、幸いにも除雪の委託業者が流雪溝の継ぎ目から水が流れ込んでいるのを発見し、漏水を疑って通報したことで事態が明らかになりましたが、このような市民からの通報がなければ取り返しのつかない事態となっていました。

今回、漏水が発生した配水管は、敷設してから35年と耐用年数の40年に迫り、耐震改修もされていませんでした。本市の「配水幹線整備基本計画」では、幹線（本管）の耐震改修を2030年までに約47%にするというもので、完了する期限もなく極めて不十分です。災害が多発する時代となり、また、巨大地震が不可避といわれるなかで最も重要なライフラインである水道の耐震化は急務です。

9月6日未明に発生した胆振東部地震で液状化など甚大な被害が発生しましたが、この地震による配水管への影響が懸念されます。とくに、液状化の被害が大きい清田区や東15丁目屯田通、西4丁目線をはじめ道路の陥没や亀裂が発生した区域は早急に緊急点検を実施するなど対策を講じる必要があると考えます。よって、以下の通り要望いたします。

### 記

1. 配水管の破損とみられる漏水の原因究明を行うこと。
2. 漏水事故現場の安全確保とともに、配水幹線について緊急点検を実施すること。
3. 配水幹線と医療機関など重要施設へ向かう配水管の耐震改修計画を抜本的に見直し、早期に完了する計画を立てること。また、配水枝線についても早期に耐震改修をすすめること。